

盛岡広域圏社会経済動態調査・実施計画書 (一部抜粋)

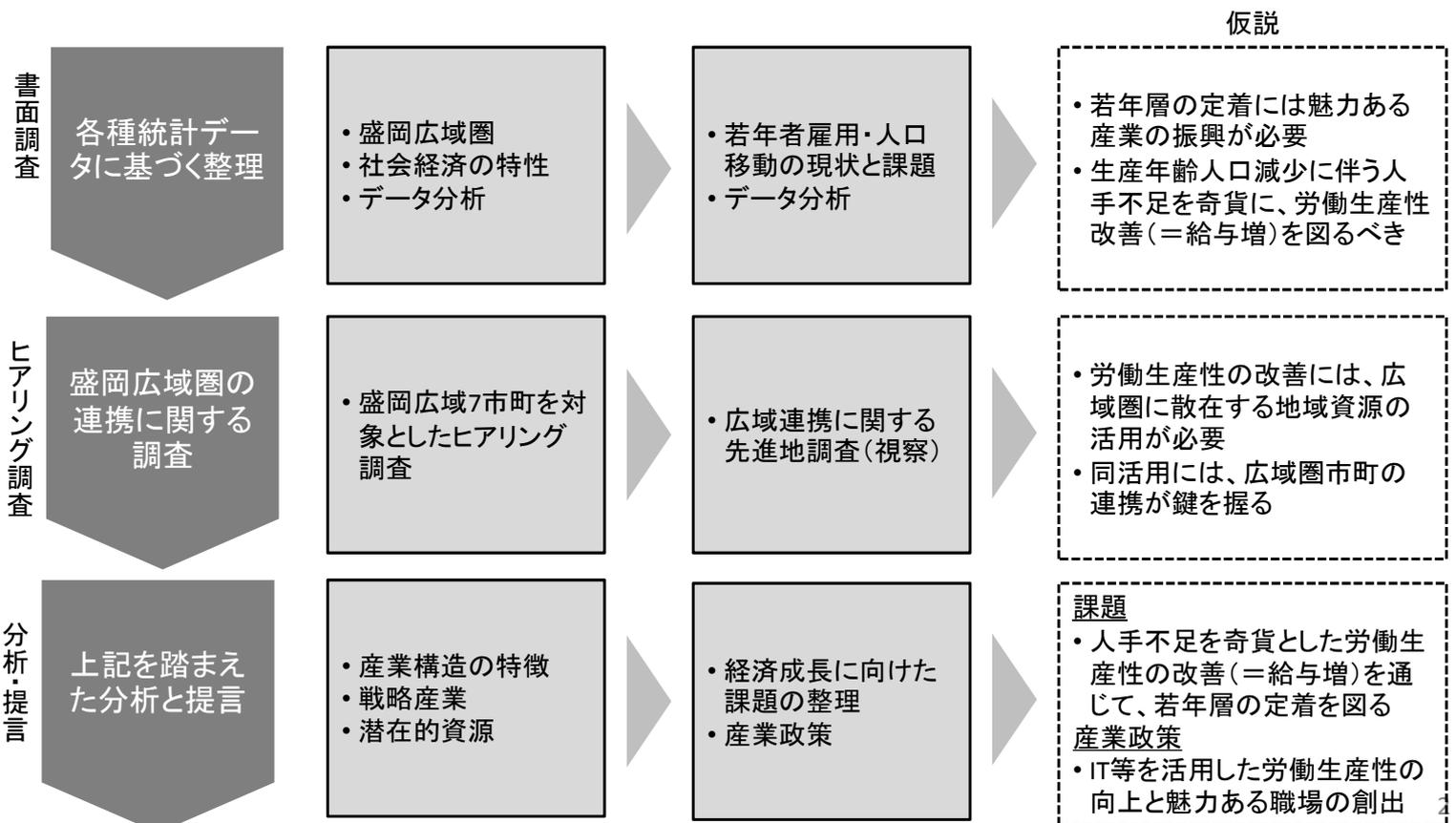
平成26年9月1日

株式会社日本経済研究所
一般財団法人岩手経済研究所
一般財団法人北海道東北地域経済総合研究所

1

1. 分析の全体像

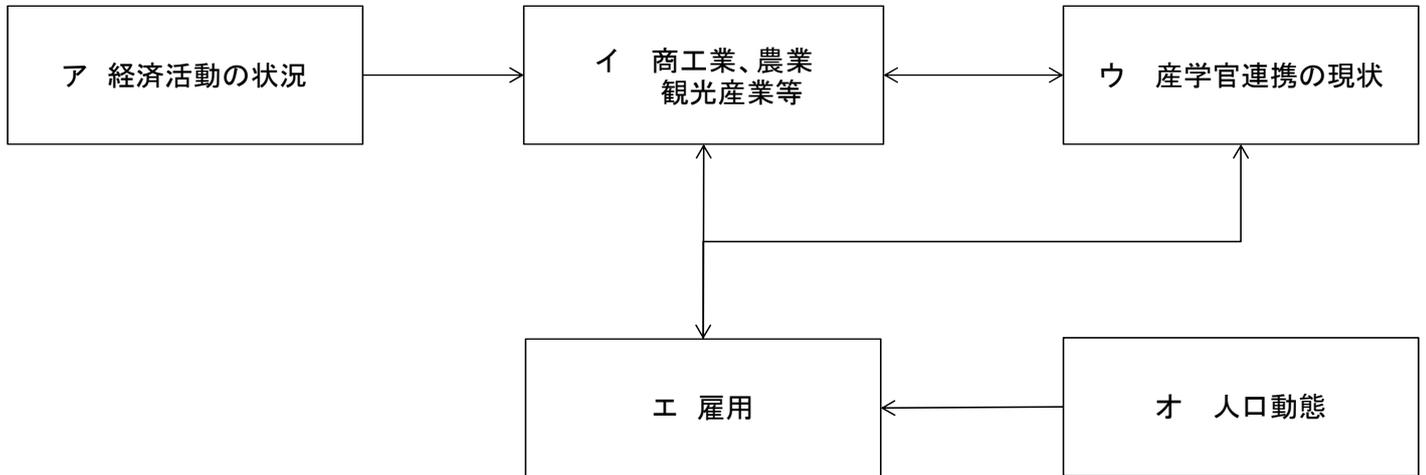
調査分析の現段階における全体イメージを以下に示す。広域圏の未来を担う若年層の流出を防ぐため、魅力ある職場の創出が求められる。そのためには、労働生産性を改善し、給与を上げる必要がある。同改善には、広域圏の高度IT人材を、観光や食品等の地域資源型産業に活かすことがポイントとみられる。



2. データ整理 全体像

整理項目ア～オの内容と関係を下図に示す。ア→オの順に、短期→長期(構造)となる。

- ア 経済活動の状況: 域内総生産(GDP)、消費(家計調査)、特化係数(産業)等
- イ 商工業、農業、観光産業等→地域資源型産業の整理
- ウ 産学官連携の現状: コラボMIU、デジタルコンテンツ産業、ILC等
- エ 雇用状況: 若年者雇用、ミスマッチ、人手不足の懸念等
- オ 人口動態: 将来推計人口(自然増減、社会増減)



3

3. 経済活動の現状(1)

経済活動の現状(短期)を把握する指標としては、下表に掲げたものが一般的であるが、盛岡広域圏に絞って把握することができるのは、本調査チームの岩手経済研究所が実施している岩手県内企業景況調査である。同調査を盛岡広域圏向けにカスタマイズすることによって、正確に現状を把握する。

区分	調査・統計名	出所
個人消費	大型小売店舗販売額	東北経済産業局
	乗用車新車登録販売台数	岩手県自動車販売店協会
住宅着工	新設住宅着工戸数	県建築住宅課
生産活動	鉱工業生産指数	県調査統計課
公共工事	公共工事請負額	東日本建設業保証(株)岩手支店
雇用	求人倍率(有効、新規)	岩手労働局
企業倒産	企業倒産(件数、金額)	(株)東京商工リサーチ盛岡支店
観光	主要スキー場入込客数	岩手経済研究所
農業	野菜出荷状況	JA全農いわて
総合 (業況、売上、利益、 在庫、資金、雇用、等)	岩手県内企業景況調査 →盛岡広域にカスタマイズ	岩手経済研究所 独自収集データ

岩手経済
研究所が
毎月整理

岩手経済
研究所が
四半期毎
に整理

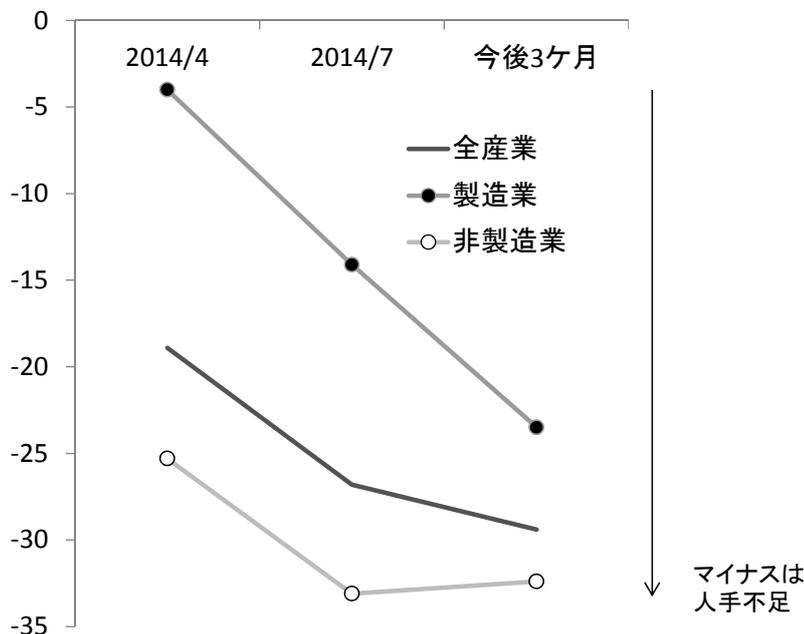
4

4. 経済活動の現状(2)雇用指標

調査チームである、岩手経済研究所の独自調査によると、岩手県内企業の雇用人員BSI(過剰-不足)は、マイナス幅が拡大しており、急速に人手不足感が強まっている。これは震災復興に加え、生産年齢人口減少の影響が本格化したためとみられる。

岩手県内企業 雇用人員BSI(過剰-不足)

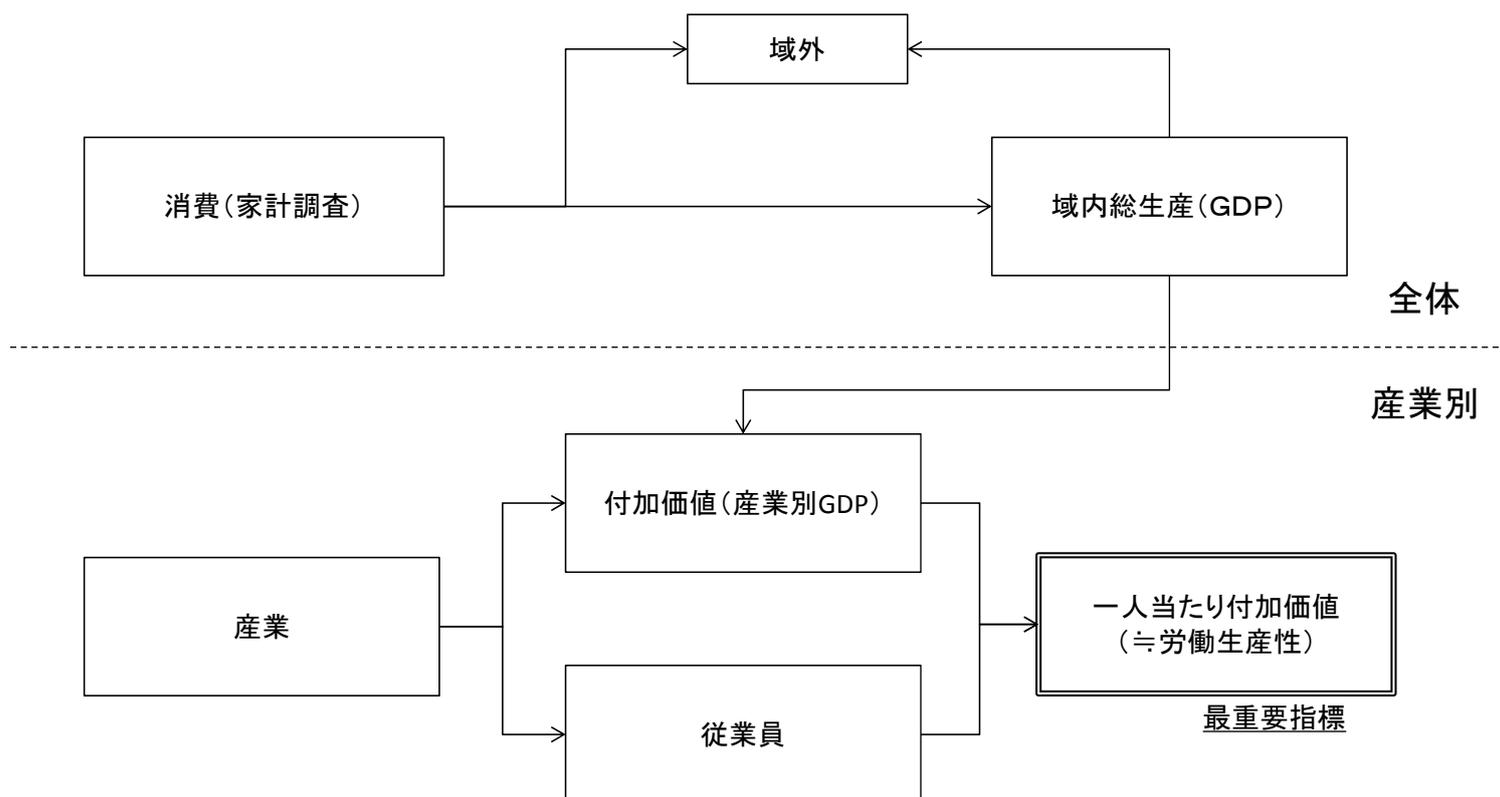
	2014/4	2014/7	今後3ヶ月
全産業	-18.9	-26.8	-29.4
製造業	-4	-14.1	-23.5
食料品	-40	-33.3	-33.3
金属製品	0	-28.6	-42.8
電気機械	28.6	25	12.5
非製造業	-25.3	-33.1	-32.4
建設	-45.5	-38.1	-47.6
小売	-22.2	-28.1	-25
サービス	-19	-42.4	-42.3



5

5. 経済活動の現状(3)広域圏の経済構造

短期的な景況よりも重要なのは、広域圏の経済構造の把握である。下図に構造把握のフロー図を示す。



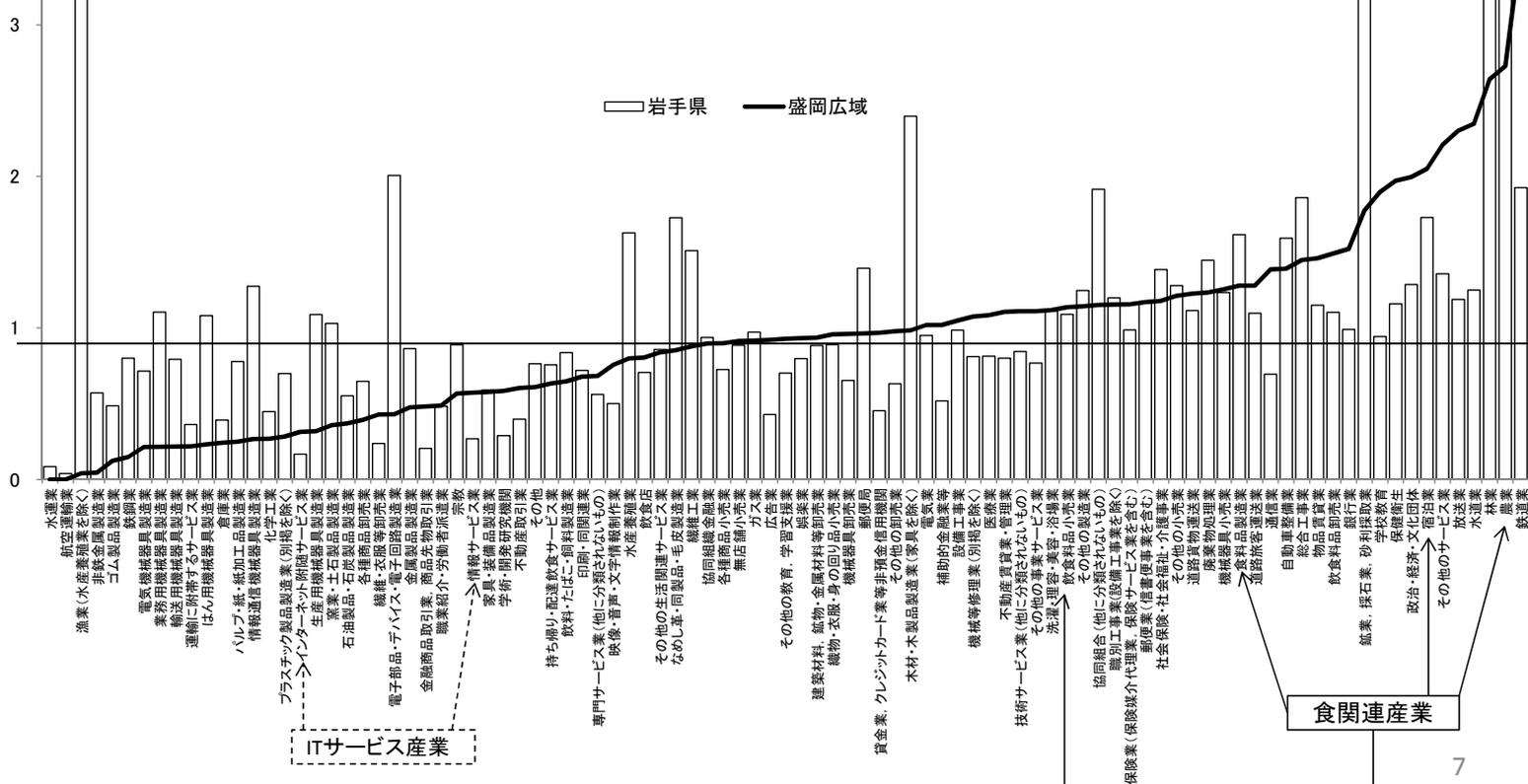
6

6. 経済活動の状況(4)盛岡広域圏全産業の特徴

盛岡広域圏の全産業(除公務)における特化係数(2012従業者数基準)を下図に示す。農林業、宿泊業、食品卸、食品製造等の特化係数が高く、広域圏の特徴となっている。

2012特化係数=各産業の盛岡広域圏等における構成比/同全国

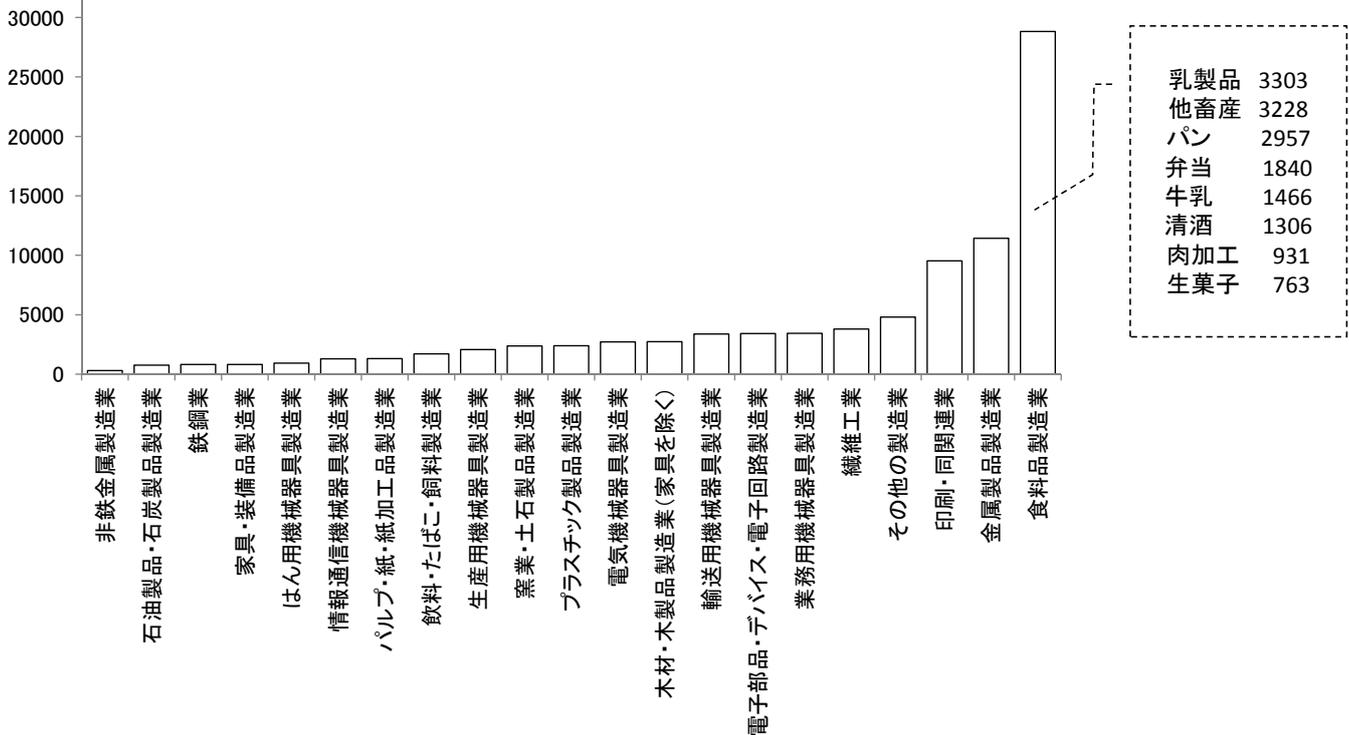
(備考)平成24年経済センサスより作成



7. 経済活動の状況(5)盛岡広域圏製造業の特徴

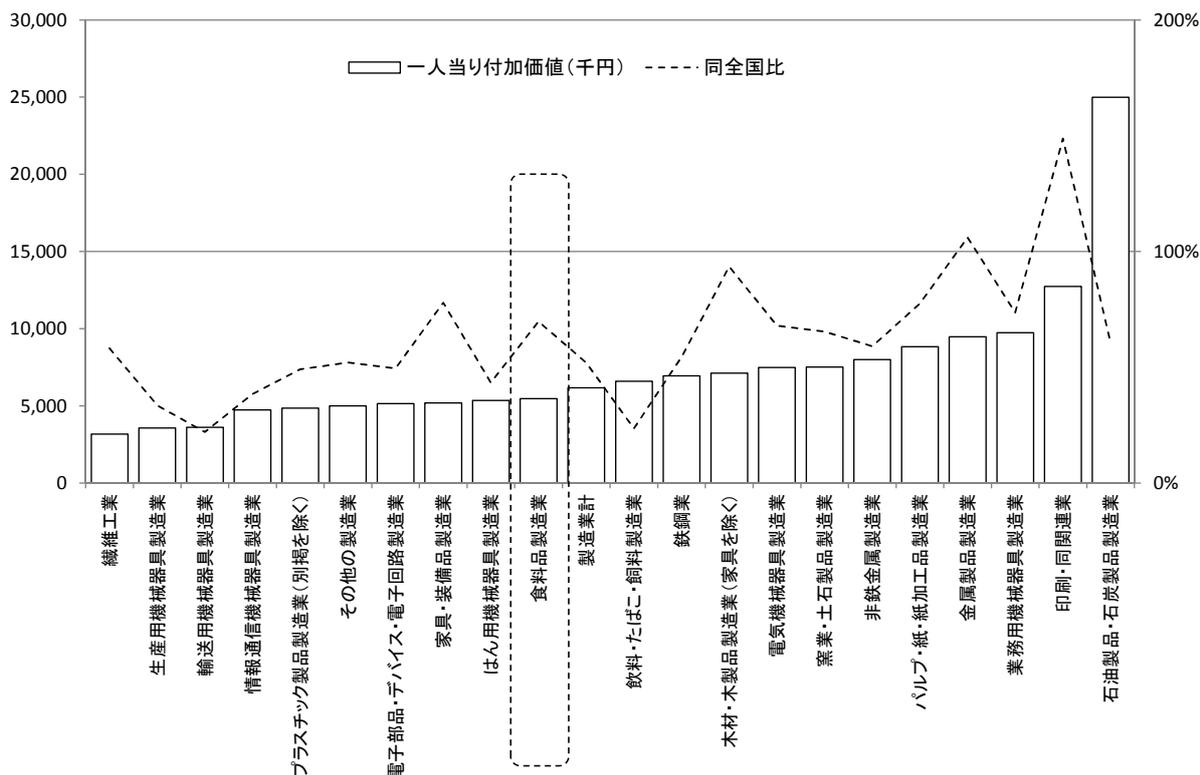
盛岡広域圏製造業の付加価値額(=GDP)内訳を下図に示す。食品品製造業が最も多く、全体の約1/3を占める。食品製造業は長らく苦境が続いてきたが、後述のように、日本酒やスイーツ(←乳製品)が急成長しつつある。

付加価値額(2012、百万円)



8. 経済活動の状況(6)盛岡広域圏製造業：一人当たり付加価値

盛岡広域圏製造業の一人当たり付加価値(≒給与、労働生産性)を下図に示す。食品製造業に象徴される労働集約型が多く、全国平均を下回っており、同改善が若年層定着に重要とみられる。労働生産性の改善には機械化が必要であり、機械化のポイントは、機械を動かすソフトウェアにある。域内IT人材の活用等が望まれる。

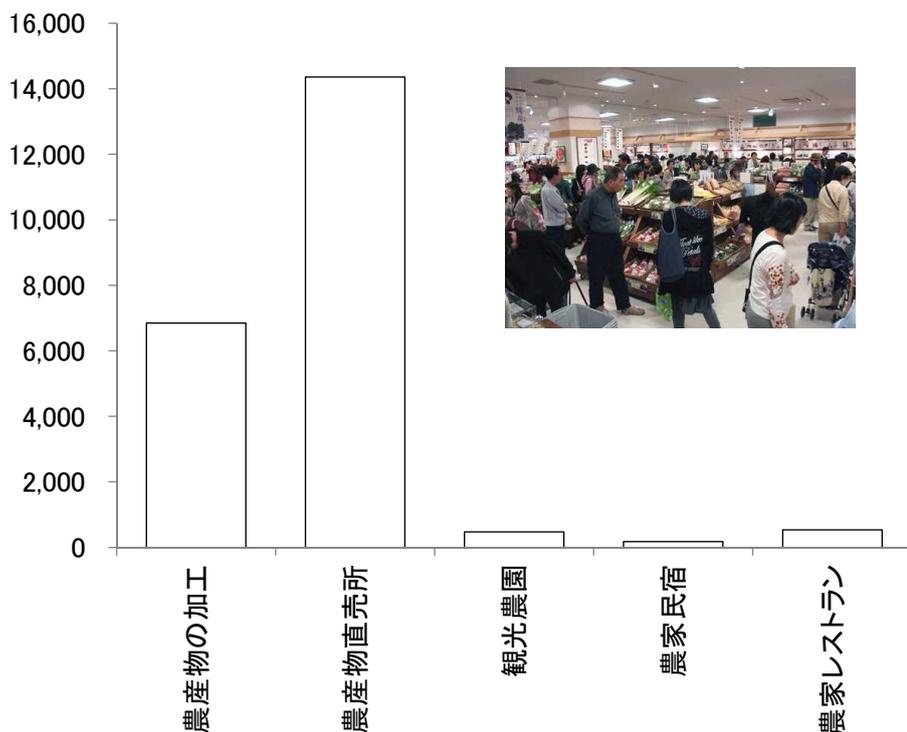


平成24年工業統計表「工業地区編」データ [経済産業省大臣官房調査統計グループ] (平成26年4月25日公表)より作成

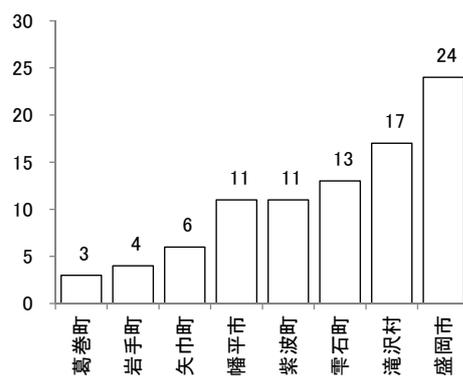
9. 六次産業

6次産業の中核は農産物の直売所である。盛岡の再開発中核テナント(クロステラス盛岡：賢治の大地館)をはじめ、盛岡広域圏には大規模直売所の集積がみられる。

岩手県6次産業(百万円、2012、6次産業化総合調査)

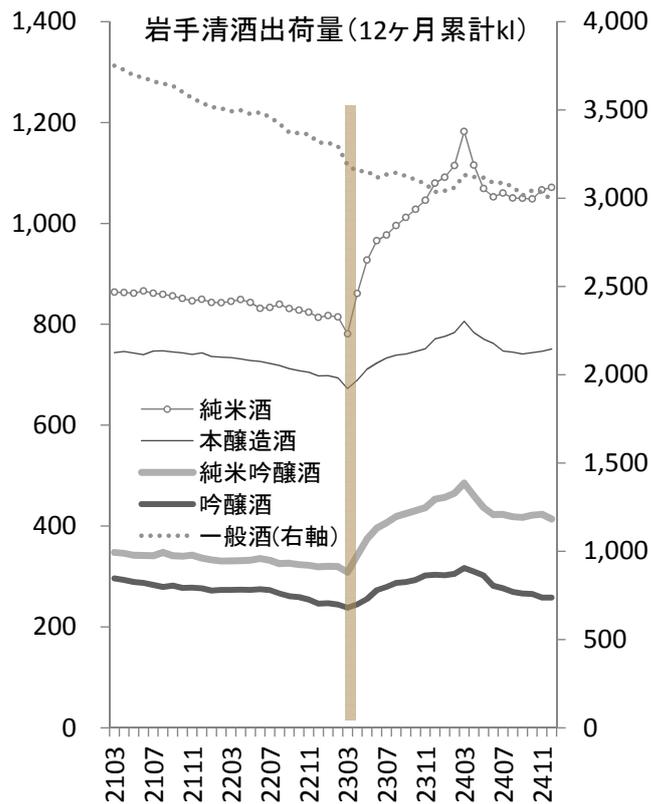
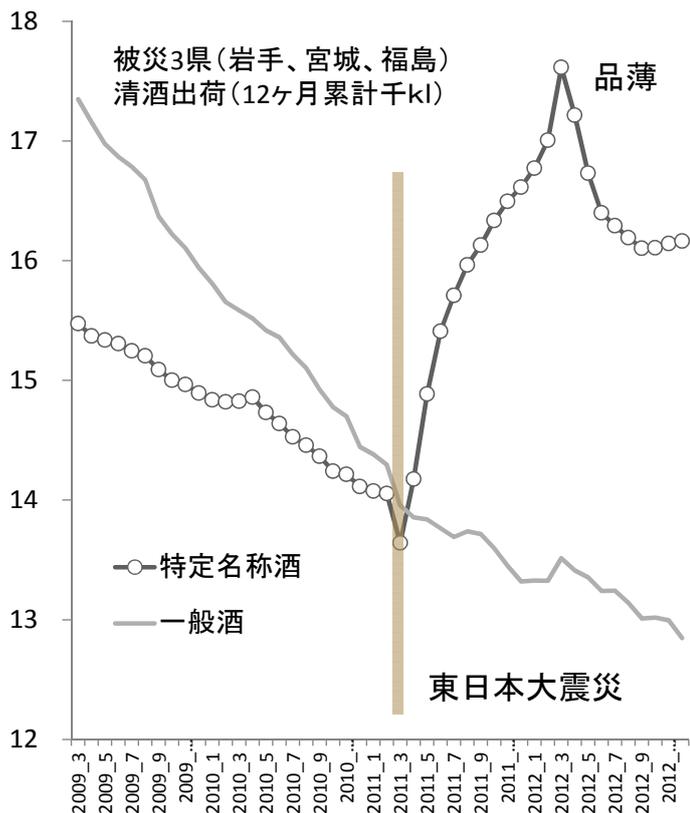


産地直売所数(2010)農業センサス



10. 日本酒産業

被災3県の清酒出荷を左図に、岩手県の内訳を右図に示す。震災を契機に高級酒が伸長(最も成長→純米酒、次に、純米吟醸酒。翌年8月には品薄となりピークアウトしたが需要は強い。一般酒は減少が続く



(備考) 日本酒造組合中央会まとめの概数より作成

2303はH23年3月(2011/3)

11. 産学官連携

盛岡広域圏には、産学官連携の拠点多い。分野的には岩手県立大学ソフトウェア学部が象徴されるIT関連が大層を占める。またアルプス電気の開発拠点が存在(2002年撤退)したことから、同スピナウトを中心にIT関連起業の集積もみられる。

今後期待されるのは、食品産業等へIT技術を活用し、労働生産性を改善することである。盛岡広域圏には、組み込みソフトや生産管理システム等、活用可能な関連IT技術が集積しているとみられる。

	機関名	設置者	特徴
1984	岩手県産学官交流アクセスフォーラム	産学官	先駆け
1992	岩手ネットワークシステム	岩手大工学部等	先進事例
2002	岩手県地域連携研究センター	2005県出先→岩手県立大学内組織へ	ソフトウェア学部
2003	岩手大学地域共同研究センター	岩手大学	いわて産業振興センター
2004	いわて産学連携推進協議会	岩手大学、岩手銀行、日本政策投資銀行	2006メンバー拡大
2007	岩手医科大学リエゾンセンター	岩手医科大学	薬学部設立を契機
2007	盛岡市産学官連携研究センター(コラボMIU)	岩手大学、盛岡市	デジタルコンテンツ産業等
2008	盛岡市新事業創造センター(M-tec)	工業技術センター隣接	赤武酒造等が入居
2008	いわて未来づくり機構	岩手大学、岩手県立大学、経済同友会等	一次産品の高機能化等
2009	滝沢村(現滝沢市)IPUイノベーションセンター	岩手県立大学	組み込みソフト等
2014	IPU第二イノベーションセンター開所	〃	〃

12. 分析 全体像

分析のフローを下図に示す

- ア 産業構造の特徴
- イ 戦略産業
- ウ 潜在的資源
- エ 経済成長に向けた課題
- オ その他経済戦略の策定において考慮すべき事項

